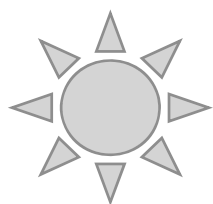
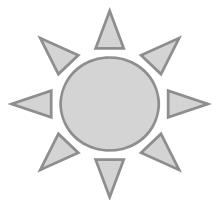


研究室紹介



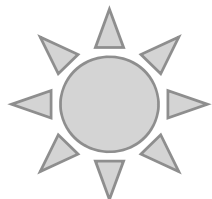
人間探究領域

大嶋広美先生、杉木恒彦先生



自然探究領域

山崎岳先生、竹田一彦先生



社会探究領域

布川弘先生

人間探究領域

大嶋広美先生

Q. 先生の研究内容について教えてください。

私は中国の方言、特に南の方の南方方言の研究でここに来ました。文法ではなく、音韻や音声の研究をしています。

Q. 研究の魅力は何ですか？

今までわかってなかったことが自分で一生懸命勉強して分かるのが嬉しいですね。あとは、人のやってないことをやれるのが一番嬉しいです。

Q. どうして日本人に中国語を教えたいと思ったんですか？

中国人に日本語を教えるっていうのは、あまり興味がなかったんですよ。中国語を勉強したいという気持ちが圧倒的に強かったので、日本語を教えるというよりも自分で中国語を勉強したいと思い、中国語を教える職に就きました。

Q. 中国語を教える時に気をつけていることは？

一番難しいと言われるのが、声調なんです。それがリズムも教えています。一文字一文字発音するのではなく句レベルで発音させて、強弱もあるのでそこを気をつけてやっています。特に発音にも重点を置いています。

Q. 中国に初めて行かれたのはいつになりますか？

1988年です。大学2年生だったと思います。

Q. その時のことを聞かせてください。

幻滅しました。当時はまだ共産主義の国だったので、ホテルが空いていても部屋がないっていうんです。で、従業員がペチャクチャ喋っててぜんぜん働かない。働こうが働かまいが給料同じなんです。儲けは全部国から来るので、働きたくないから、部屋が空いていてもないっていうんです。当時は、でも、

日本に帰るとなんだかまた中国に行きたいなっていう気持ちになるんですね。二度と行きたくないとはならないんです、惹かれるんですよ。それで、何回か行く。多分、中国の人が温かいっていうのと中国語を勉強してるとってというのがあるからかもしれませんね。

Q. 留学されていたじゃないですか。利点は何かありますか？

利点はやっぱり日本とは違う習慣とか文化を知ることでしょうね。それは中国とは限りませんが、日本とは違うんだぞ、海外は日本とは思いつきり違うんだぞって言うことを知ることがやっぱりいいですね。最近の若い人たちは海外に行きたがらないけれど、是非行つてもらいたいです。別に危険なところに行く必要はないので。大学生の皆さんは暇な時間があったならば是非。日本と違う習慣とか、本から学ぶのではなく実体験をしてもらいたいですね。

Q. 中国の好きな場所はどこですか？

広東省の広州ですね。そこが一番好きで、第二の故郷といった感じですよ。旅行だったら成都が好きでした。とても街がきれいで、時間がゆったり流れて、風景も綺麗で、治安もとてもよかったです。

Q. 中国と日本で一番違うなと思ったことは何ですか？

人でしょうね、人の考え方。中国の人はやりたいことをやる、要するに、本当にまっしぐらといった感じですよ。そして積極的。日本人は逆ですね。積極的などころがない、けれども地道にコツコツと耐えながらやっている。人の性格がかなり違うと思いますよ。

Q. これから中国語を専攻する学生のために、お勧めの勉強法を教えてください。

あまり間違つたとかを考えずに、間違つてもいいから、興味のあるものにはどんどん集中して勉強してください。将来もし研究者に

なるなら、先駆者になつてもらいたいですね。誰もやってない、誰も目につけていないことを、自分で自らやってもらいたいです。先駆者は大体間違つてることが多いですが、間違つていても、その研究分野に貢献できるとになりますよ。

Q. 広島大学の良さは何ですか？

皆にとつては悪いことかもしれませんが、娯楽がないんで勉強に集中しやすいということだと思えます。余計なものが周りにないことがいい。本も必要なものはしっかりそろっているし、勉強しやすい環境にある。そこが良いところだと思います。

Q. 総合科学部についてどう思いますか？

他の先生方もおっしゃっているのですが、文系・理系が分け隔てなく勉強できるのがいいですね。言語学は哲学に入るので、私が言語学を勉強した時、先生に、物理を勉強しろと言われました。言語学と偏らず理系

の勉強も大事なのかなと思いました。文系の人も理系のことをするべきです。物理は、考え方が役に立ちました。法則とか論理性とか。

Q. 最後に、学生に一言お願いします。

1年生は、興味のあることをどんどん勉強して吸収してください。社会人になると勉強する機会や時間はなかなかないので。上級生には、社会であろうと学問の世界であろうとぜひ先駆者になってほしいです。

人間探究領域 杉木恒彦先生

Q. 研究内容は？

宗教学です。インドの宗教や思想や文化の研究をしています。インドとかネパールですね。特に密教を中心に、インドやネパールの仏教やヒンドゥー教を研究しつつ、世界のさまざまな宗教の比較宗教学をやっています。

Q. 実際に現地に行っているのですか？

はい、行っています。ネパールには最近起きた地震以降は行っていませんが、インドには毎年行っています。

Q. 研究しようと思ったきっかけは？

最初は西洋哲学に興味があつてそれをやっていたのですが、やっていくうちに東洋の哲学もやらないといけないと思うようになりました。東洋の哲学といえればやはり仏教かなと思ひ、仏教経典を読んだら、西洋のキルケゴールなどの実論主義者たちの悩みが全部飛んで、仏教に興味を持ちました。それから仏教の研究をやるうと思ひ始めましたが、

仏教を研究するなら他の宗教についても知

っておかないとまずいなと思ひ、様々な宗教についても研究するようになって、その結果インドやネパールの仏教やヒンドゥー教、比較宗教学の研究をするようになりました。仏教の中でなぜ密教を専門にしたかというところ、インドの仏教の歴史を見ると、密教が最後に来るのですよ。インドの仏教の最終形態はどのようなになっているのかに興味があつて。だから密教を専門とすることになりました。

Q. 日本人は無宗教と言われていますが、それについてはどう思いますか？

日本人は頭の中にある宗教の定義が狭い。よその国では宗教とみなすものを日本人は宗教とみなさないのです。例えば、お墓参りや初詣などの宗教的なイベントに参加したり、肝試しを怖がりするなど、宗教的な怖れは皆持っています。それらのイベントに参加している間は宗教を意識していませんよ。日本人は慣習と思つていることを宗

教と合わない傾向があるのです。反対に、我々が学内で見かけるムスリムの人たちが顔を覆ったり、豚肉を食べなかったりするこ

とを私たちは宗教的に見るが、ムスリムの人たちは慣習として行っているのです。そういう意味で日本人の宗教の定義は狭く、外国人から見たら宗教的に思えることを日本人は宗教と違ってやっていないのです。日本は政教分離の国だから、宗教が社会の中で巨大化するのを恐れている。無宗教の定義にもよりますが、日本人の感覚での無宗教は、それでもうまくやっていけているのでいいと思います。

Q. 宗教について研究する学者は多いですか？

あまり知られていないと思いますが、日本で最も大きな学会の一つに日本宗教学会というのがあるので、そういう研究をしている学者は多いと思います。しかし、大学の先生で宗教の研究をしている人となると、少ない

と思います。なぜなら、宗教の研究をしていても大学で職は得られないからです。そういう先生は運がいいのだと思います。

Q. このことは日本人の学生が宗教にあまり関心がないことと結びついているのですか？

そうだと思いますが、それに加えて日本人の宗教に対するイメージがあまりよくないのもあると思います。だから関心を持たなくなつて、そのような結果になっていると思います。

Q. 昔の日本であった「マレビト信仰」が今では薄れていますが、今後の復興はあると思いますか？

今後のことは何とも言えません。ただ一つ言えることは、制度の枠にとられない宗教が今後ますます勢力を増してくるということです。なので、もしマレビト信仰もルールや戒律から独立した個人主義的な宗教へ

と変化していくなれば、勢力は大きくなると思います。

Q. 日本の子供たちに宗教についてもっと知ってもらうためにどのような教育をすべきだと思いますか？

まずは、日本人が宗教に対する関心が薄いこと、良くないイメージを持っていることに自覚的になることが大切です。宗教のとらえ方には違つたらえ方もあるということを知つてもらふべきだと思います。その上で世界のさまざまな宗教を学んで、関心をもたせることが重要だと思います。まずは、自分が宗教に関心がないことに自覚的になること。そこから始めるべきです。

Q. 宗教は色々な物と関わっていると思うんですけど、関連しているものの例を教えてください。

例えば経済。宗教と経済の関係の研究は古くから行われてきたことです。最近イスラ

ム社会というのがホットな話題になってきているので、政治と宗教の関係っていうのはどこかでみんなも聞いたことがあるんじゃないかと思うし、他に宗教と教育の関係とか。

Q. 趣味はなんですか？

ジョギングです。軽い腕立て伏せもやるかな。まあ、寒くなるとサボったりもするんだけど。

Q. 学生時代何をしてすごしていましたか？

軟式テニスのサークルに入っていました。中学の頃からテニスはずっとやっていました。あとは、アルバイトをやって、勉強して、ちよつと絵も描いて、漫画クラブってサークルを掛け持ちして入っていたから漫画も描いていた。卒業論文と一緒に卒業漫画っていうのも書いて、某雑誌なんかを持ち込んだりもしたんだけどね、駄目だった(笑)。

Q. 今も漫画やテニスを続けていますか？

いや、今はもうどちらもやってません。今やっているのはジョギングだけです(笑)。

Q. 人生の中で苦勞したことは何ですか？

色々あります。例えば、インドの研究をするためにはサンスクリット語の勉強をしなければいけないんだけど、最初は全く分からなくて苦勞した。あと、インドに留学したのはいいけど、カレーが食べれなくて。インドではカレー粉を全ての料理に入れるんだけど食べられなくて、最初の半年で約20キロ痩せた。まずいと思って日本に帰ってきたんだけど、胃袋が小さくなり過ぎていて、牛丼の並も食べれなかったな。2ヶ月かけて日本で体調調整してインドに戻ったんだけど、食べ物には苦勞した。今はもう慣れてきたから大丈夫だけどね。

Q. どれくらいの期間インドに留學していたんですか？

2年くらいです。インドでは、インドの歴史

の勉強をしていました。

Q. 総合科学部の学生に一言お願いします。

総合科学部って色々なことが勉強できるよね。その中で、色々な学問に始めて触れることで気付かなかった自分の関心に気付いてくれたらいいなと思います。既に自分が持っていた関心をさらに深めよう高めようと思うかもしれない、それならそれでどんどんやって欲しい。関心と特技を見つけてください。見つけた人は深めてください。

Q. 最後に、宗教の魅力を教えてください。

宗教に対する変なイメージを取り払って考えると、宗教は色んな世界の見方や人間の見方を教えてくれる。しかもそれを単なる知識じゃなくて、『救い』に到達する形で世界の見方を教えてくれる。それがよそとは違う。まあ経済学や政治学や科学っていうのも世界の仕組みを教えてくれるんだけど、でも、研究・学びを通じて救われることはそれらに

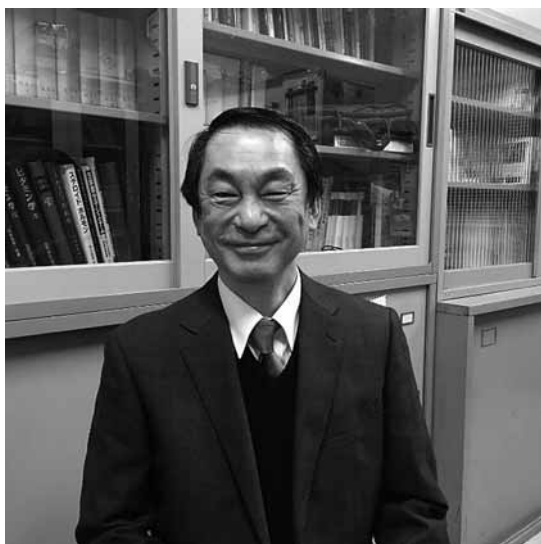
おいては、考えられてない。でも、宗教は、救いにつながる形で世界や人間を説いている。その思想・教えを研究するのがおもしろい。人間の一つの知のあり方として興味深いかな。

自然探究領域

山崎岳 先生

主な担当科目

一般化学、生命科学概論、生化学など



Q. 先生の研究内容について教えてください。

ステロイドホルモンについて研究している、君たちの知っているのだと男性ホルモン、女性ホルモンがあると思うのだけど、私は今、特に女性ホルモンの研究をしています。女性ホルモンというのは女性を女性らしくするのだけど、そういったことはあまり研究してなくて、脳に対する女性ホルモンの働きを研究しています。不思議なことに、脳は女性ホルモンに守られているんですね。例えば、ネズミの実験で、メスのネズミから卵巣を除去すると、女性ホルモンがグッと減るのだけれども、そうすると記憶がグッと弱くなる。まあ、ちよつとアホになる。それから、脳梗塞とか何かあった時に脳がダメージを受けやすくなる。逆に女性ホルモンを投与すると、脳は守られる。これも動物実験だけれども、アルツハイマー症とか認知症とかそういう病気でも脳を守るといことがわかっていて、面白いことに、男性も女性も脳の女性ホルモンは脳で作っている。男性は血液中にはあんまり女性ホルモンがない。まあ、あることはあるのだけど女性よりも少ない。脳

の中の女性ホルモンは、実はネズミではオスの方の量が多い。で、人間はちよつと調べにくいから、人のデータはあまりないのだけど、少なくとも男性の脳にも女性ホルモンはかなりある。そして、それは男性ホルモンから作ったりしている。で、女性の場合は、性周期があつて女性ホルモンの血液中の濃度が変化するのだけど、ネズミで調べる限り、その血液中の変化にあまり関係なく、血液中よりも脳の女性ホルモンの濃度は高い。だから、ネズミではオスもメスも、脳で女性ホルモンを作つて、脳を守っている。そういうことを研究していますね。

で、その女性ホルモンがどんな風にして脳を守るかとか、例えばネズミの実験で、脳で女性ホルモンを作らなくさせるとダメージが大きくなる。それは水俣病のメチル水銀を投与するとダメージが大きくなったり、脳梗塞のモデルをするとダメージが大きくなったりとかそういうこと。だから私の研究は女性ホルモンの研究なのだけど、女性ホルモンが男性、女性に関わらず脳で作られていて、その脳で作っている女性ホルモンが脳を守

っているという研究をしています。

Q. その研究を始めたきっかけは何ですか？

私がここに30年前くらいに就職した時に、私の前任者達がステロイドホルモンを作る酵素の研究をしていたのですね。シトクロムP450っていう酵素で、それを世界で初めて精製、つまり綺麗にして取り出すことに成功した人が(指導)教授だったのだけど、そこで、副腎皮質のステロイドホルモンの合成の研究を始めて……。だから、自分がそれをやりたかって始めたというよりも、広島大学の総合科学部に就職したら研究室がその研究をやっていたから始めた、というのが正直なところですね。ただ、最初は副腎皮質ホルモンの研究だったのだけど、10年くらい前から脳の女性ホルモンの研究に変わりました。

Q. なぜ女性ホルモンの研究に変わったのですか？

女性ホルモンが脳ですごく大事な働きをしていることが、ちょうどその頃からわかってきたのです。それも人との出会いで、私と

同じ総合科学研究科の浮穴先生の前のボス(指導教授)だった筒井先生(早稲田大学所属、2016年現在)のところが共同研究をしたのですね。筒井先生は脳の研究をしていて、違うところをやっていたのだけどそれをしよう、と共同研究を始めて……。最初のうちはあんまり量が少ないから、しんどいなと思っていただけ……。まあ、それがきっかけですね。筒井先生が広島大学に来て、脳のことを始めて、脳のホルモンの研究を始めて。それからまた違う先生と共同研究をすることになったのだけど、まあそういう感じですね。人との出会いでどのテーマを研究するかが決まってきました。

Q. 今後はどのような研究をされるのですか？

やっぱり私はあんまり薬を開発しようとは思ってないのだよね。動物実験とかでわかったのだけど、女性ホルモンには発がん性とかいろいろあるから、閉経後の女性に女性ホルモン投与する女性ホルモン補充療法とかは副作用が起きすぎて今あんまりやられて

ない。で今はそれがわかってしまってたのかなか研究続けても意味があるのかっていう状況になっている。だからそういう副作用をできるだけ少なくしながら脳の女性ホルモンを増やす研究をしていますね。で展望が何かって言われるとないことはないんですけどまだあんまりうまくいってないっていう状況。

Q. うまくいけば医療界ということも？

ある時期脳の女性ホルモンってすごく注目されていてまあ十数年前かな、けどちょっと人間の治療に使うのは難しいいとなったから今ちょっと研究者が減っちゃってね、そういう状況ですね。今の世の中役に立つか立たないかが大事で、人間の治療に使えるか使えないかっていうのでやっぱり研究費の供給が変わってきちゃうんですね。でも私あんまり、自分が薬学部でもないし医学部でもないから、それよりもどんなメカニズムで脳を守っているのかそっちの方をやりたいので。人の役に立つか立たないかはあまり気にしていない。で、展望という意味では、ま

あわかんないところ多いし面白いと思いません。以前研究していた副腎皮質ホルモンは量が多くて研究しやすかったんだよね。脳のホルモンは量が少なくて副腎の千分の一しかなくて、最初うまく測れなくてなかなかそっちに研究をシフトしにくかったけど、どんどん分析機械の感度が良くなって、すごく微小なものまで測れるようになった、でどんどんいろんなことがわかってきた。で最近わかっているのは、脳の女性ホルモンなのだけど、目にもあるとか膀胱にもあるとか心臓が別のホルモン作っているとか、いろんなステロイドホルモン、今まで予想もしてなかった身体中のいろんなところで、ごく微量のステロイドホルモンをつくっていて、それが体のいろんな調節に効いているのです。

Q. ステロイドってなんですか

コレステロールっていう油なのだけどね、コレステロールからできるホルモンとよく似た形をしているホルモン、それをステロイドホルモンって呼んでいて、そのステロイドホルモンの中に男性ホルモン、女性ホルモン、

副腎皮質ホルモン、大雑把に言ってその三つのだけどある。

ステロイドホルモンと言うのが正式名称なのだけど、我々はよくステロイドと省略して言いますね。

Q. 大学時代はどんな風に過ごしていましたか？

私は東京工業大学っていう総科と全く逆の、理系の理学部と工学部しかないところでの、理系の時は99%男性で、確か900人で、私の代が初めて女性が2桁の12人になった年だった。男ばかりでね、ものすごく均質な、総科と全く逆のところ。私は研究者になろうと思っていたから勉強もしたのだけど、サークル活動に明け暮れていましたね。私は中学・高校で天文部に入っていたのだけど、大学に天文部がなかったから作ったのだよ。2年生の時に作って、2年生の後期くらいから部員募集したらワツと来て…。私は創始者で初代部長になって。創始者は(私を含め)6人いたのだけど、大体が大学の先生になっているね。そいつらと本当にワイワイやって、サ

ークル作ってサークル活動に明け暮れて。それで男しかいないから女子部員を呼ぼうってなってね。やっぱり、女の子にも天文ファンがいっぱいいるのだけど、女子大とかだと天文部って作りにくいのだよね、多分女性ばかりだから。それで色んな女子大の女の子…部員の誰かの同級生なんかをリクルートして(笑)。例えば学園祭なんかがあっても最初だから絶対参加しようと思って、何が何でもとにかくやってみなければうまくいかないか、やってみなければ、最初誰かがやらないと、次の人がどうすればいいかわからないから、まあ失敗してもいいところからやってみれば。失敗したら次の人がどこをどう変えたらいいかわかるので。なんでもできることをやりましたね。すごく楽しかったですね。

Q. ちなみに女子部員はどれくらい集まったんですか？

20%くらいは来たかな…。ある1つの大学からとかではなくてね、お茶の水から数人、文京女子大から数人、という感じで。やっぱり

り女子大の子が多いね。共学の大学だともうそこに天文部があるから来ないのですよ。例えば高校時代に天文部だったけど大学に入ったら天文サークルがないっていう子がよく来て…。でも都立大の子なんかも来ていたかな。まあこんな感じで、正確に何人かとかはわからないけど…。あ、でも2割はいなかったかな…。でも私の大学の女子学生の数よりは断然多かったけど。それが目的…。ではないこともなかったけど(笑)。まあそれだけじゃなかったですね。非常に大学時代は楽しくて、今思っても若い頃に戻りたいとは思わないですね。やりたいことは全部やりましたね。

Q. では「これはしておけばよかった…」というでもないですか？

そりゃないことはないけれども、戻ったからといってもっと良くなることもないし。大体やりたいことはやったかな、と思います。勉強もかなり…。まあまあしたし、でも大学3年生くらいまではサークルに明け暮れて…。そういう生活でした。

Q. 先生の趣味はなんですか？

昔は星を見ることだったのだけど、まあ学生時代は旅行を一生懸命しましたね。春夏秋冬1か月ぐらいあちこち行って、大学院生になるとあちこちで学会があるから、学会行っただけじゃなくてそこに滞在したりしました。

私は車の運転が好きでね、毎週末に山口のうちの女房のところまで行って帰るのが今の一番のストレスの発散かな。

Q. これからの世の中を生きて行くために必要な能力は？

それはまあ難しいのだけど、人間とのコミュニケーション力とか何個かあるけれども、違う質問に切り替えて答えても良いかな？

私が学生さんに教えたい能力。

自分ができれば教えたいと思っているのは、私が理系なので、論理的な判断能力。私をよく困った時に、ちよっと分析をして、何が原因かを考えてそれをちよっと変えてみる、でそれが改善されるかを見てみる、で改善されなかったら別のことを変えてみるとかちよっと工夫をしてみる。というそういう

のはサイエンスの手法なのですけど、そういう手法って世の中を渡っていく時にも使えると思っていて、だから皆さんも自分の生活でも何か決断しなければいけない時(まあ結婚する時は違うか、あれは理論的に考えなかったけど)、まあ引越す時とかね、これをどう変えたらどうなるか、実験できない時はシミュレーションしてね、なんかそういう論理的にやるといえるのは結構役に立つので、そういうやり方っていうのは研究をする中で教えられるなって、それは一生懸命教えようと思っています。

自分自身もできるだけそれを実践してやっていっていますね。

でも本当に役に立つのは人とのコミュニケーション力だけどそれは教えられるものでもないからね。

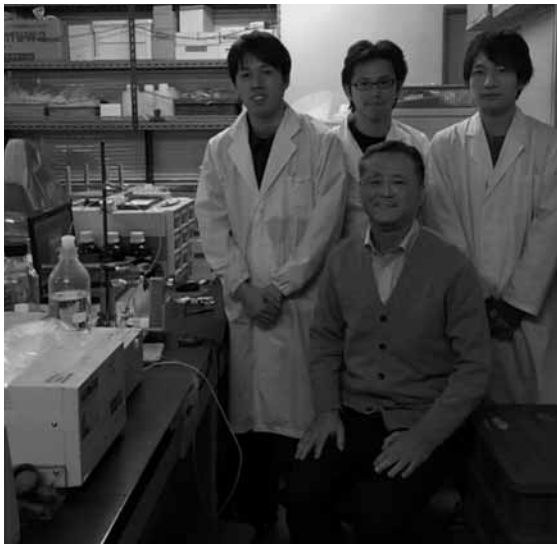


自然探究領域

竹田一彦 先生

主な担当科目

初修化学、環境分析化学、自然環境演習など



Q. まず先生の研究を教えてください。

私は、環境科学を研究しています。その中でも、環境中の様々な化学物質を測定することでその物質がその環境の中でどういう風に動いているのか、そしてそれらが地球環境にどういう風な影響を与えているのかという分析化学を基本に研究しています。特にその中でも海洋とか河川とか大気とか気水圏の中での化学物質の動きを研究しています。さらに細かく言うと、その中でも最近では活性酸素とか光化学反応のような光が関係しているような化学反応、物質の生成・消滅。それから、活性酸素というのも光化学反応でできるようなものを追っかけています。

Q. 分析化学が今、具体的に活用されているところはありますか。

分析化学はものを測りましょうってことなので、すべてのことの基本になります。例えば過酸化水素とかヒドロキシラジカルとかの活性酸素種なんかは、そういうものが海の中でどういう風に発生してどういう風に無くなっていくのかを見ることによって、

農薬のような化学物質が海の中へ流れ出たときにその農薬がどれくらいの日日にちで分解されなくなっていくのかを推定するのに役立つかもしれない。なかなか、すぐにこれに役立っているっていうのは言えないのだけど、そういうことが出来ます。

Q. 何故この研究を始めたのですか。

僕の研究の中にはいろいろ流れがあって。流れの中でこういうところに来ていたんだけど。僕自身は、大学の頃は物理をやっていたのです。化学ではなかったのです。

Q. 物理学ですか？

物性学科。大学院に行くときに総科の先生の所に来たのです。その先生がたまたま化学で、その時から光化学。光を使った色々な材料研究だとかをやるようになったのです。そういうしているうちに環境をやってみないかと言われました。僕は大学院の頃から光化学をやっていたので、光の関係する環境科学をやってみたいなと思って、やり始めたのですね。その中であっち行ったりこっち行った

りしながら、今に至ると。実は、光化学ってあまりたくさんの方が注目しているわけじゃない。それでも毎日太陽が出て沈んでいるわけだから、その中で必ず光化学反応は起こっている。いつも起きている反応なのだけど、その中身がどうなっているのだということをしつかり見ることが重要なことだよ。

Q. 学生時代のプライベート、たとえばサークルとか、何か思い出を教えてください。

学生時代はあんまり何もやってなかったのだけど、大学入って1年間だけボートをやりました。なんでボートをやったのかというと、大学でしかできない事をやろうと。遊びでもサークルでもなんでも。その中でボートって大学でしかできないクラブ活動じゃないかなって。もちろん高校でやっている人もいるのだけど。まああんまり長続きしなかったね。体も小さかったし。ボートって体重が重ければ重いほどいい競技なのです。そういう意味ではちよっと長続きしなかったかな。大学時代何をやったかといわれると非常にっらいなあ。何もやってないなあ。東千田町の

思い出かな。広島市内にキャンパスが昔あったのですよ。そこはすごく小さくて、町中に出るのも飲み屋に行くのも下宿も全部自転車だけで何とかなるようなところだった。何が楽しかったって言われると難しいけど。そのでの生活は楽しかったですね。もう下宿も今は駐車場になっていたけどね。どんどん変わって、ほとんど何も残ってないけどね。

Q. 広大の良いところを教えてください。

とにかく大きな大学っていうのが良いところだと思う。色々な先生がいる。もし高校生にどういう大学を選んだらいいですかって聞かれたらもちろん何がやりたいかっていうのもあるけど、少しでも大きい大学に行つたほうが良い。大きな大学へ行くことのメリットの一つは、学生時代のお友達。色々なお友達がいる。他学部の友達っていうように友達バラエティが広がる。研究でもそう。色々な先生の話聞けるっていう。君らは総合科学部で色々な先生がいることに何も思わないかもしれないけど、小さい大学だと、いつも同じメンバーでいつも同じ先生の顔

を見ながら授業を受ける。その点では、友達も先生も色々な人がいる。その中で、卒業後どうするのか、何をやるのかを考えるのに非常に良い場だと思えます。だから、大きな大学に來ているということは非常に素晴らしいことだと思うし、それを利用して多くの友達を作り色々な分野の人とすることが大事。色々なことを見てこういいう世界もあるのだから話をするのが重要なことだ。

Q. 広大で特に好きな場所はありますか？

僕ね、総科A棟から出たところにあるペランダが好きだね。景色がすごく良くて。理学部のあたりから西体育館あたりまで、ずっときれいに見える。田口にある入学式をした建物まで見えるからね。時々考え事する時とか、ずっと景色を見ることがあるのですよ。いいリフレッシュになりますよね。

Q. 今、学生に戻れるとしたらやってみたいこと、学生時代にやっておけばよかったなと思うことはありますか？

うーん、そうですね…。もっとちゃんと勉

強しておけばよかったなあとは思いますがね。あんまりしていなかったから。それに、英語ももっとちゃんと勉強しておけばよかった。

Q. 先生の研究室には多くの外国人留学生が出入りしておられるようですが…

うちの研究室に佐久川先生という方がおられるのだけれど、その先生のもとに留学生がたくさんいるのですよ。何年か前には、僕と佐久川先生以外全員留学生だったなんてこともありました。その人たちと、ちゃんとコミュニケーションがとれないのです。(笑)「何しやべっているのだろう?」なんてこともありましたね。決して後悔しているわけはありませんが、他にもできたことはある気がします。それが何かと言われれば、難しいですけれど。

Q. それでは、「今」学生だったらやってみたいことは?

そうだなあ、工学部についてみたいですね。特に2類の電気・電子系。もっと物を作ってみたい。それに、医者になってみたいかな、

なんてことも少し思います。学生の頃、医学部に転学しようなんて思っていたことも少なからずありますから。それと、先ほども述べたのですけど、やっぱり英語は大事ですから、留学を若いうちに行っておけばよかったです。

Q. するとすれば、どこに行きたいですか?

アメリカですね。14〜5年前に研究の1環で1年間アメリカのウズホー研究所に行きました。非常に楽しかった。アメリカで船に乗ったのですけど、アメリカと日本では習慣が全く違うのですよ。アメリカの船は日本のものと大きさはあまり変わりませんが、研究室がたくさんありたくさん研究することができました。

それに、考え方もたくさん違うことを学びました。とにかく違いに驚くのですよ。生活も、研究も、考え方も、日本との違いを見てこちらのいいところ・悪いところ、あちらのいいところ・悪いところに気付きましたね。そういった意味で、違いを楽しめたのはよかったです。

Q. 先生は休日は何をしていましたか?

毎日研究室に来ていたかな。1年生から3年生の時は、土日はそれなりに過ごしていたけど、土曜日は授業だったからね。

Q. ねー? 授業ですか?

なにいつてんだよ(笑)、土曜の午前中は授業だったよ! 休みは日曜だけだよ。特に大学院生になってから、毎日研究室に言っていたよ。実験のレポート書いたり、もちろん実験をしに行ったり。必ずしも、一日中ではなくて、お昼にちよつと行ってかえるってかんじかな。大学時代何やっていたかな? 特に何もやってなかったから、思い出せないな。

Q. 先生は理系科目の担当ですが、文系に対しても丁寧な授業をされていますよね。

そうだなあ、初修化学だからというのもあるかもしれない。初修化学で初めからガンガン授業をしていては、分からなくなりやすいから。1つ重要なことは、「分かれば楽しい」ということです。分からなければ興味を持つ

ない。初修化学の目的は化学を好きになってもらうこと、というのもあります。「分かる」範囲を広げるきっかけにしてほしいです。僕の授業で終わりではなく、きっかけにして自分の世界を広げてほしいです。

Q. なぜ、学生に知って欲しいのですか？

やっぱり世界を広げて欲しいからですね。知らなければ、行き止まり。特に総科の人に言いたいことは、早く自分を見つけてほしいということですよ。工学部や文学部、薬学部の人たちなんかは、みんな高校生の時に自分を見つけていて、その方向に進んでいるわけだけど、君たちはそういう人に比べてやっぱり少なからず遅れをとっていると思う。中途半端に学年を終えないためには、いろいろな授業で「分かり」、早く自分を見つけてほしい。それが大学生の勉強です。

Q. なぜそんなに学生に知ってもらいたいと思ってるのですか？

やっぱり、自分で行動し、知ることによって世界が広がる。知らなければそこはもう行

き止まり。だけど、今重要なこと、総合科学部の皆さんに知ってもらいたいことは、早く自分を見つけてないといけないということ。どちらかというと、工学部に行きたい人、理学部に行きたい人、文学部に行きたい人、教育学部に行きたい人、それから薬学部、看護に行きたい人、みんな高校生の時に「これだ！」って思って、ここまで来ているけど、君たちの中にはどっちかという、「いいや、総科で！」って来ている子もいるよね？やっぱそれは、まじいとまでは行かないけれど、何年か遅れをとっているわけよ。そう、だから僕が思うのは、できるだけ早く自分を見つけてほしいかな。特に総科は、最近は中途半端な形でどんどんどん学年を進められることが多いと思う。そのためにはいろいろな授業でわかってもらえて、早く自分を見つめる。「自分が行く方向はこっちだ！」と思ったら、そちらの方向に進んでもらったら、それが大学生の頃の勉強の仕方。高校の時は、何でもかんでもわあわあやっていて、最後は試験さえ良ければ、何でもいいっていうのが高校かもしれないけど、今からはそうじゃな

くて自分から前に進んでいかなくちやならないのですよね。大学生の時は、受け身じゃダメ。進む方向が早く見つかれば見つかるほど、僕はいいと思う。だから、その中で、総科のなかの一つの科学、環境科学、生命科学、化学（ばけがく）も一つの選択肢としてあるのですよって、ぜひ自然環境科学科目群に来てね（笑）僕は理学部でとにかくこれがしたかった。ひとつは4年制を出た時、君らは他の学部の人たちと戦わなきゃいけない。社会に出た時には、総科だから大して専門的なことをしてないとは言われないことだね。大学の多くは、工学部であったり、理学部であったり、専門的なことやっている学生ばかりなのに、そんな大層なことやってませんじや、使い物にならないねっていう事になるからね。だから君たちには自分の行く方向を見つけてほしい。その中の選択肢のうちのひとつが僕の授業だったのかもしれないと思ってくれたら嬉しいけどね。でもやっぱりわかってもらえるほうが嬉しいじゃない。竹田の授業はわからなかったっていわれるよりは

と思っていたからちょっと易しくやりました。

Q. せっかくなのでそれらを踏まえて、新入生に向けて自然科学のいいところとか、お伝えしていただけますか？

やっぱり、ひとつはね、例えば理学部ではできないことを総科でやって、生命科学、環境科学、材料科学、情報科学、理系で言えばこの4つの科学。理学部では生命科学はできないし。その中で、環境、生命、情報を使えるようになるのが、理系の4つのハシゴになりそうだね。その中で、総合科学部でエンジョイしてもらいたいし、理系だけじゃなくその中でしっかり行く方向を見つけて、そこにチャレンジしていく。大学って、しっかりと自分の行く方向を見つける、そっちの方向に行く準備をする場所なんじゃないかな。特に、1年生へのメッセージとしては、いろいろなことを勉強して自分の行く方向を見つけてほしい。そのためには、広島大学は大きくて、いろんな研究をしているところだから、総科の中だけではなくて、工学部、理学部、教育

学部、いろいろな授業を見て、総科のコースの枠、科目群や領域の枠じゃなくて、広島大学の中、さらに言えば外に広げて、自分でやりたいことのために、必要なことを、かき集めていってほしい。

社会探究領域

布川 弘 先生

日本近代都市社会学

主な担当科目

ヒロシマ学、日本史B、都市社会史など



Q. 先生がなさっている研究はや都市学やヒロシマ学などの平和学とお伺いしました。現在、一番力を入れている研究は？

一番力を入れているものの一つは、広島の被爆の社会文化的な意味ですね。

もう一つは広島の前、原爆が投下される前の明治、大正時代からの歴史の見直し。なぜかという本を書かなきゃいけないから、それに今集中しようかと。

Q. 明治、大正の広島を研究することはどれくらい役に立つのですか？

なぜ広島が原爆投下の目標地になったかというと、人口30万人の大きな都市だから実験にちょうど良かったというのが正しい理由。当時広島は軍都だとして意識がすごく強くて、戦前の歴史は全部軍都に塗り固められ、否定されていた。実際には例えば江戸時代、300年近く城下町の歴史も、色々な文化があった、色々な社会があったけど、それが全部軍都だと言って、覆いかぶさってしまう傾

向があった。それをまず何とかしたい。逆にそれがわかると原爆で何を失ったかがわかる。すごく大事なものがたくさんあったはずなんです。人命ももちろんですけど、広島が300年以上かけて作ってきたものが、一瞬にして無くなっているわけだから、実際にはすごくたくさんのがあったはず。それをできるだけ掘り起こしたいと思っている。だから、軍の都市であるというイメージを、もちろんその側面はあるんだけど、それだけじゃない広島っていうものを、もう一回明らかにして、ひいては原爆の投下の日に何が失われたかという観点から、もう一度見直してみようかなって。それは一般的には、第二次世界大戦のとき空襲が非常に激しかったんだけど、空襲で何が失われたかという、もうちょっと広い問題にもかかる。で、今いろいろ空襲がやられています。空襲っていうのは、例えば何となく我々はイスラム国なんかを封じるために必要な手段だと思っているけど、それによって失われるものって、もの

すごく大きいわけ。それで、その問題を警告するとか、その問題に光をあてる意味でもすごく重要な研究だなあと。

Q. 例えば、町で行われてきた行事だったり、その町に300年間の間で残されてきた建物であつたり、あとは文化的な蓄積みたいなものがあると思いますが、先生はそう言った分野にも興味があるのですか？

もともとぼくは、社会史という分野なんです。社会史というのは、高校や中学で日本史やるよね。そこではだいたい政治の話が軸でしょ。政治と経済。政治と経済じゃなくて、例えば、人と人との関係とか、そのなかでどういう生活が営まれてきたかとか、そこで、その生活にかかってどういう文化があつたかとかいろいろやるのが僕の関心なんです。あまり教科書に載ってない、普通の一般人がどういう生活をしていたか、どういふ人間関係を作っていたか。空爆、原爆は、このよなもの根こそぎ失うんですよ。人と人の

関係とか暮らしの中の文化とか全部まきになくなつちゃうでしょ。だからものすごく破壊的な行為だなんて。建物だけではないんだよね。まあある種、地震なんかにいえるかもしれないけど。

Q. それで、研究の一番のメインなんです。その研究の魅力っていうのは先生にとつてどんなものですか？

例えば、ドラマで豊臣秀吉とか織田信長っていう有名な人が取り上げられているけど、歴史上の人物の99%は有名じゃない人なんだよね。その人たちがやっぱり実際には歴史を作っているわけだから、実際に歴史を作っている人に焦点を当てるのが本筋じゃないかと。だけど、なんでそれをやらないかというのと、記録が残っていないんだよね。で、書状とか日記とか、そういう、さかのぼればさかのぼるほど文字をかける人がすごく限られてくるから、文字資料として残らない。だけど、残らないから不要かっていうとそうじゃない

くて、残らないものなかに、すごく大事なものがたくさんあつたりする。で、文字で残っているものなんて、ほんのごくわずかで、氷山のごく上の方しかない。下の方は全然わからない。で、僕は、こつちの方が大事だと思っている。もちろん、これから考えなくちゃいけないんだけど。氷山の上から考えるのも大事だけどね。

Q. 先生の趣味は何ですか？

文系の人間っていうのはだいたい、本を読むのが趣味というか仕事のようなものだから、大体、1日のうちもう6時間とか7時間は本と向き合ってるわけ。それで、すぐは読まないけど、まあこれ使いたいな、というのは買ったりしてるんで、やっぱりだんだんこう増えてきてしまつて…書斎は猫に占領されてしまつてるから(笑)、書庫がほしいかな。

趣味は、一つは音楽。研究室の棚にCDが置いてあるんだけど、9割がクラシックだと

思うんだよね。バツハ、モーツアルト、ベートーベンって並べてるんだけど、これが主に聞く音楽かな。

あとはマンガだね。プラモデルも作って、研究室の上のやつは海軍の爆撃機なだけで、平和をやりながら軍艦と戦闘機を…平和の先生だと思ってここに来る人もびっくりだ(笑)。

あとは、僕映画館に行くの苦手なんで、こうやってDVDとか買って観てるんだけど。あとは旅行かな。あ、大事な趣味を言うのを忘れてた、お笑いなんだよお笑い。クラシック音楽とお笑いなんだよ。アメトークとまっちゃんのすべらない話とかね。ずっと晩飯とか食いながらアメトーク見てんの。

Q. 学生時代になんか違った勉強をされてましたよね。先生が学生時代に学んだことで、次の研究に発展させていくために役に立ったものは何ですか？

学生時代に、神戸の街、特に観光とかで一

切取り上げられないところに連れて行ってもらったことかな。電気屋のバイトで、お父さんの仕事を手伝っていたもんだから。それがやっぱり大きいかね。街に出てその人たちの暮らしぶりとか、実際に仕事やってる人を見ることになるので、それでずいぶん物事の見方が変わったよ。こういう風な生き方をしている人もいるんだと思って。大学で学ぶこともすごく大事だと思うんだけど、大学で学んでるよりもどっちが大事だかって言えないくらいに、大きいことだね。それがなきや今研究してないと思う。

Q. 最後に、総合科学部の学生に一言お願いします！

僕が言えることはやっぱり、いろんな体験をして社会を見てほしいなと思う。その点バイトは大事だと思う。僕学生時代いろんな種類のバイトやったんだけど、家の取り壊しとかスイカの選別とか。もちろんカテキヨもやったけど、そこでいろんな人と会う。だから

僕としてはすごく楽しかったしいろいろ教わったなと思う。

大学も大事なんだけど、もうちょっと広げて考えてみてほしい。だから西条はちよつと寂しいかなって思いますね。

あまり学生とこんな話をするのもないんだよね、それこそ『飛翔』ぐらい。学生と話す機会が必要だと思う。チーム制とか学部改編とか、総科は新しいことをいろいろやっていくけど、やはり学生の意見も聞くべきだと思う。そうしないと学生が混乱すると思うんだよね。

Q. 激動の広島大学の中で私たちは生きていかなきゃいけないんですね…

激動っていうか激怒だよ(笑)。

